



県内主要産業の動向

2017年7・8月

◎順調 ○まずまず ◐やや低調 ●不調

業種	景況			コメント
	17年6月	17年7月	先行き	
金属洋食器	●	●	→	受注は総じて低調。家庭用が閑散期に入ったことに加え、業務用も伸び悩んだ。業務用は、飲食店の新規出店が落ち込んでいることが影響。イベント・商談会等、製品PRの機会はあるが、人手不足によって生産体制が整わず参加を断念する企業もみられる。
金属 ハウスウェア	●	●	→	受注は用途により明暗が分かれる。業務用は、洗浄のしやすさを重視した厨房用品が好調。一方、家庭用は、低価格品を中心に海外製品へ代替が進み低迷が続く。タンブラーなど訴求力のある商品は安定して受注しており、製品間で格差が広がっている。
作業工具	◐	◐	→	国内販売は、建築関連工具が製品用途によりばらつきがみられるものの、東京オリンピック需要により堅調な動きが続いている。輸出は、各社の出荷状況に差はあるが、総体では東南アジア向けを中心に好調。鋼材価格再値上げの動きが一部で始まり、コストアップが懸念材料に。
電子部品 ・デバイス	○	○	→	受注は増勢基調。半導体関連では、在庫の逼迫感が強まっており、半導体や半導体素材の受注が引き続き伸びている。電子部品関連では、半導体製造装置向けが堅調に推移。携帯端末関連も高水準な受注が続く。受注増を受けて、夏休みを遅らせて生産にあたる事業所もみられる。
鋳物	○	○	→	受注は引き続き堅調。IT関連や機械関連だけでなく、トラックや航空機、鉄道など運輸関連にも動きが出てきており、年末までの安定的な受注を見込んでいる。足下では、中国の国策であるキューボラから電気炉への更新需要を背景に、輸出が堅調で当面続く見通しである。
金型	○	○	→	受注は総じて堅調に推移。建築金物は、県外向けビル・マンションの金具が好調。自動車関連は、乗用車・バスの車体や部品の受注が前年を上回る。足下では、暖房機器の生産が始まる時期だが受注は弱含み。依然、人手不足は変わらず、生産性向上が課題。
一般機械	○	○	→	内需は、自動車や半導体関連を中心に底堅い需要。外需は、中国・米国・インド市場を中心に、自動車・航空機・インフラ関係に加えて半導体・液晶関係も好調を維持。工作機械は、秋以降の中国経済の失速懸念があったが、現段階ではその兆候はなく年初来の好調が続く。



業種	景況			コメント
	17年6月	17年7月	先行き	
絹織物	●	●	→	受注は、厳しい状況。十日町産地では夏場でイベント数も少なく、集客も低調に終わった。また、人手不足で人件費が上昇しており、収益を圧迫している。五泉産地は、金額・数量共に前年割れ。厳しい状況の中、受注生産からの脱却に向け、自社ブランドを立ち上げ洋装に取り組む企業もみられる。
合織織物	●	●	→	春物生産がスタートしたが、受注は前年並みにとどまる。今後、店頭の販売状況次第で追加受注が決まるが、消費者の根強い節約志向のため、見通しは厳しい。そうした中、栃尾産地では、繊維の街PR企画として、木製の糸車を使ったランプで商店街を飾るイベントを10月に予定している。
ニット	●	●	→	例年、秋冬物の生産期だが、アパレルは慎重姿勢で受注は前年割れ。店頭販売次第で追加受注が決まるが、主な商圏となる関東地方で暑い天候が続いており、立ち上がりは良くない。見附産地では、東京の服装専門学校生をインターンシップで受け入れ、技術指導とともに品質の高さのPRに努めた。
木工家具	●	●	→	業務用は、夏場商戦向け受注が盛り上がりせず散発的な小口受注にとどまる。一部業者では飲食チェーン店からの受注継続が見込まれるものの、総じて低調。家庭用は、受注確保に苦慮する状況が続く。そうした中、桐材を家具製品以外の用途で活用し販売促進につなげる事業者もみられる。
清酒	●	●	→	7月の出荷量は、県内・県外向けとも前年を下回った。酒類別では、本醸造酒が伸び悩み。販路別では、飲食店向けの不振が持続。足下でも、首都圏の長雨の影響により出荷の落ち込みが続いている模様。各酒蔵とも需要喚起のため、秋向けの季節商品の投入を計画している。
米菓	◐	◐	↗	7月の売上は気温上昇や大雨などの影響から前年をやや下回った。8月は定番品などが堅調なものの、ギフトが振るわず前年並みの模様。そうした中、各メーカーとも秋の行楽シーズンに向け新商品の開発に注力。一部では、インターネット販売用の商品強化や海外進出に向けた動きも。
建設	◐	◐	→	公共工事は、減少傾向が続く。県の工事発注の動きがやや鈍く、今年度予算の執行本格化が待たれる状況。民間工事は、小規模工事主体で盛り上がり欠ける。住宅建設は、展示場の客足は例年並みだが、着工ベースでは持家・貸家とも足下で弱含みの動きをみせている。
大型小売店	◐	◐	→	7月の売上は前年並みを確保。気温上昇により衣料品や食品が堅調で、時計などの高額品も好調だった。8月に入り帰省客・祭り向けのお土産品は順調だったものの、お中元商戦は苦戦。そうした中、農作物の不作による青果価格上昇が、今後の消費マインド低下につながることを懸念する声が聞かれた。